

25政第1002号

平成25年4月12日

日本魚類学会

会長 木村清志様

亀岡市長 栗山正隆



亀岡市のアユモドキ生息地における京都府専用  
球技場開発に関する質問状に対する回答

日頃は、魚類をはじめとする多様な生物の保護、保全に御尽力いただいておりますことに、深く敬意を表します。

さて、平成25年3月12日付けで貴学会からいただきました「京都府亀岡市のアユモドキ生息地における大規模開発に関する緊急要請」に伴う「質問状」につきまして、下記のとおり回答いたします。

亀岡市におきましては、平成15年から今日まで地域住民の協力の下で、専門家や保護団体及び関係行政機関とともにアユモドキの保護及び生息環境の保全に努めてきた経過を踏まえ、京都府大規模スポーツ施設の誘致におきましても、現在の繁殖場所及び仔稚魚の成育場所の保全に万全を期し、新たに共生ゾーンを整備するとともに、周辺河川への生息域の拡大を目指す所存であります。

つきましては、引き続き貴学会をはじめ各分野の専門家の御意見をいただき、所期の目的を達成するよう努めてまいりますので、御協力を賜りますようお願いいたします。

記

(質問1)

専用球技場建設場所の決定過程において、亀岡市が候補にあげた場所が、まさに京都府、また近畿地方唯一のアユモドキの繁殖・初期生息場所であることをご存知でしたか。

## 回答

治水・利水環境の整備が進展することによって、かつて琵琶湖・淀川水系に分布していたアユモドキの生息を、現在でも確認できる場所は亀岡市内に限られること、専用球技場の誘致場所の近傍である桂川とその支流の合流部の直上流部が、繁殖・初期成育場所であることを承知しています。

亀岡市は、平成15年から専門家や地域住民等の協力を得て保護・保全に取り組んでおり、平成20年度に専門家に委嘱して設置した亀岡市アユモドキ生息環境保全回復研究会から「亀岡市のアユモドキを保全するための提言書」をいただきました。平成21年度には、地元自治会、農業団体、NPO、国・府等と協働して「亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会」を立ち上げ、現状の生息環境の保全はもとより、生息地の拡大や新たな繁殖場所の創出を目指して、アユモドキの保護・保全に努めてまいりました。

現在もこの地でアユモドキが生息しているのは、アユモドキの生態に配慮した農業ダムの管理など、地域の農業者を中心とした関係者の理解と協力による「共生」の結果と考えています。

## (質問2)

誘致の過程で、亀岡市が掲げる「共生ゾーン」の設置によるアユモドキ等野生生物の保全策とその実効性について、事前にどのような調査や専門家および関係省庁と協議を行い、またどのような結論を得て、京都府に提案したのでしょうか。

## 回答

共生ゾーンの設置を目的とした事前調査や専門家及び関係省庁との協議は、実施していません。

河川や周辺農地の水利環境に依存しない繁殖と仔稚魚の成育環境を創ることやサンクチュアリの設置は、平成21年3月に策定された亀岡市アユモドキ生息環境保全回復研究会の提言書にある課題です。提言では、繁殖場所等を地域から孤立させるのではなく、サンクチュアリを亀岡駅北開発の地域振興と合せて地元住民の理解を得る中で整備することが重要であるとされています。専用球技場の誘致を契機として、地域住民の理解と協力を得る中で、提言の趣旨に沿って共生ゾーンを設置しようとするものです。



今日までのアユモドキの保護・保全活動の成果を踏まえるとともに、各分野の学識経験者等で構成する専門家会議を設け、専用球技場の整備手法等について助言を得るとともに、関係省庁と協議します。

(質問3)

亀岡市は、アユモドキ等野生生物の貴重な生息地に専用球技場を建設するうえで、今後、どのような調査や対策を行う計画でしょうか。

回答

専用球技場を建設する京都府とともに、専用球技場建設地及び周辺的环境調査を実施し、各分野の学識経験者等で構成する専門家会議を設け、必要な環境保全対策や自然環境に配慮した工法の採用により、緑豊かな山並みを背景としてアユモドキ等が生息する「自然と共生する球技場」を建設する計画です。

(質問4)

亀岡市が掲げる「共生ゾーン」の設置によって、当地におけるアユモドキの存続が科学的に蓋然性をもって保証されることがない場合でも、なお専用球技場の建設を計画通り当地で行いますか。

回答

アユモドキが繁殖行動を起こし仔魚が成育する場所は、繁殖時期に合わせて農業用ダムを起立させることにより創出する河川地内の一時的水域です。

その近傍地に専用球技場を建設することは、アユモドキの生息環境に何らかの影響を与えると推察されるため、環境負荷の少ない工法等を採用するとともに、専用球技場を誘致する都市公園内に共生ゾーンを設置して、今日までと同様に地域住民や関係団体とともにアユモドキの保護と生息環境の保全に努め、多様な生物と共生する専用球技場の整備をすすめてまいります。